

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

安全就業シルバー人材センター優良賞を受賞して

今月号は、令和元年度全シ協定時総会（6月20日）において安全就業シルバー人材センター優良賞を受賞された18団体のうち、利府町シルバー人材センター、かすみがうら市シルバー人材センター、太田市シルバー人材センター、深谷市シルバー人材センター、燕市シルバー人材センター、入善町シルバー人材センター、野々市市シルバー人材センター、小松市シルバー人材センター、永平寺町シルバー人材センター、以上9団体からの報告を掲載します。

公益社団法人 利府町シルバー人材センター

利府町は、宮城県のほぼ中央に位置し、大都市・仙台にも隣接し、東部は太平洋に面し日本三景・松島の一角を成しており、古くから交通の要衝として栄えてきました。現在も高速道路をはじめ、道路網の整備が進み一つの町に4つのインターチェンジがあるめずらしい町です。また、仙台市圏のなかでは新興のベッドタウンであり、オリンピック大会のサッカー会場となるひとめぼれスタジアム宮城や著名ミュージシャンがコンサートを行えるセキスイアリーナ等の運動施設や新幹線の車両基地があります。

当センターは、平成9年に設立され、本年で22年を迎えました。平成30年度の実績は、会員220名、請負及び派遣の契約金額が9,972万円でした。

安全就業の取り組みでは、「安全はすべてに優先する」を合言葉に、毎年安全委員会で安全就業推進計画を立て、年間6回以上の安全巡回パトロールや毎年安全標語を募集し、最優秀作品を就業中のぼり旗に掲載する等、事故防止に努めております。また、センター独自で、安全の取り組みの一つとして職域班ごとに安全重点目標を決めてもらい、会員へ周知徹底しております。

さらには、職域ごとに自分たちで安全に対するルールを決めて、当センター独自の安全心得手帳を携帯し、安全就業の確認をしております。このようにいろいろな取り組みを行い、事故防止に努めているところであります。

今回の受賞を励みに、会員、役職員一同「安全はすべてに優先する」をモットーに、安心して安全就業ができるように、センター一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

《事業課長 西原 正貢 記》



公益社団法人 かすみがうら市シルバー人材センター

かすみがうら市は、我が国第2位の面積を誇る湖「霞ヶ浦」と、筑波山系の南麓にはさまれ、首都東京へ約70kmの距離に位置した立地条件に恵まれた田園都市です。

平成30年度の事業運営等については、会員数278名、受託件数1,562件、受注金額2億122万2千円で、就業率は77.3%となっております。

安全対策の取り組み状況については、安全衛生委員会（6名）が主になって「安全は全てに優先する」を合言葉に、事故発生ゼロを目指し、次の事業を実施して参りました。

- ・安全衛生委員(2人1組)による月1回就業現場の安全パトロールの実施
- ・剪定・草刈り・チェーンソー講習会の実施
- ・現場作業において、安全具の配布（ヘルメット・反射ベスト・立て看板・救急箱）
- ・職群班リーダー会議を随時開催し、安全就業に関する情報交換の実施

令和元年度に於いても、今回の受賞を励みに、役職員一丸となって更なる努力をして参りたいと思います。

《常務理事兼事務局長 菅谷 憲一 記》



公益社団法人 太田市シルバー人材センター

令和という新しい時代の幕開けの年に、思いがけずに優良賞受賞という栄に浴し、関係者の皆様に衷心より感謝申し上げます。

太田市は群馬県南東部に位置し、かつて数々の名機を生み出した中島飛行機の発祥の地であり、現在はSUBARUを中心としたものづくりの都市です。

さて、本センターにおいて、就業中の事故防止、安全対策を担っているのが安全・適正就業委員会です。委員会は会員の中から理事長が委嘱した6名の委員によって構成され、毎月委員会を開催しています。事故が発生した時には、当事者等に委員会への出席を求め、事故の発生状況を聞き取ったうえで、委員間の討議によって事故原因の究明を行います。そして、その結果に基づいて、当事者を指導し、必要があれば安全就業基準の改定を理事長に求めることもあります。また、職群班の班長会議を開催して、事故事例や安全就業上のポイントなどを伝達し、会員への水平展開を図っています。

ところで、事故の傾向に関しては、最近では会員の高年齢化に伴う身体的機能の低下による骨折などが増えています。会員の高年齢化は、潜在的な事故リスクを高めます。これにどう対応していくのか、難しい課題ですが、「安全は全てに優先する」を合言葉に取り組んでいきたいと思ひます。

《常務理事兼事務局長 天笠 秀男 記》



公益社団法人 深谷市シルバー人材センター

深谷市は、埼玉県北西部に位置し都心から 70 km圏にあり、人口約 14 万 3 千人で、北部は利根川水系の低地、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状台地を形成する平坦な地形です。

また、新 1 万円札の肖像に決定した日本資本主義の父「渋沢栄一翁」の生誕の地です。

当センターの平成 30 年度の実績は、会員数 1,070 人、契約金額 6 億 1,200 万円であり、安全就業の取り組みでは、安全委員会髭右近委員長が中心となって、以下の事業を実施しました。

- ・ 定時総会にて安全講習を実施
- ・ 安全だよりを創刊（第 1 号～4 号を発行）
- ・ 就業現場の巡回パトロールを定期的実施
- ・ 交通安全講習会を実施
- ・ 刈払作業安全衛生講習会を実施し修了証を発行
- ・ 植木剪定技能講習会を実施し修了証を発行

今回の受賞を安全就業徹底への新たな一歩と捉え、引き続き、会員・役職員一丸となって取り組んでまいります。

《専務理事兼事務局長 吉村 善也 記》



公益社団法人 燕市シルバー人材センター

日々の会員による様々な就業には、常に私ども役職員一同は安全を第一にと心掛けているところでございます。

その安全就業に関する管理としましては、安全委員会及び地区安全対策員を中心として活動の輪を広げています。年度当初の早い段階から熱中症対策・救命救急講習会を初夏まで毎月開催し、夏場の厳しい就業環境に順応できうる心身調整を図り、危険防止・回避にかかる注意喚起を行っております。

併せて就業時に使用する機器の安全使用講習会の開催を行い、実技講習の義務化、技能登録制に重点を置き、外部講師・ベテラン会員に講師指導を仰ぎ、後進の育成強化も含め、体制強化に努めております。

それらの講習会を経て、就業先安全巡回・危険箇所事前巡回を行うとともに現場実務の現状の把握に努め、巡回時の直接指導、それらの共有とする情報を定例会での課題として結果・協議事項を全会員に周知を行っているところです。

今回の栄えある受賞を励みになお一層安全就業対策に取り組んでまいります。

《理事長 西郡 饒 記》



公益社団法人 入善町シルバー人材センター

入善町は富山県の北東部に位置し、町の西部には急流黒部川が日本海に流れ込み黒部川による臨海扇状地が形成された地形です。古くから農業が盛んで特産品である形がラクビーボールに似ており、重さが20kg近くある大きな西瓜（入善ジャンボ）の生産地でも有名です。

当センターは平成2年10月に設立され、令和2年に30周年の節目を迎えることから記念式典開催に向け、実行委員会を設立し式典内容の検討に入っています。

平成30年度の実績は会員数302名、契約金額146,326千円、就業率88.4%となっております。8年ぶりに会員増となりましたが、今年度も引き続き女性会員の増と就業率向上を目標に高齢化社会のニーズに対応できる体制強化を図っております。

安全就業の取組みでは、安全適正就業委員会（理事3名、会員5名、職員3名）を中心として事故の無い安全な就業に努めています。屋外作業の剪定、草刈では、班長等から危険個所の伝達、全員での確認を作業前ミーティングで共通認識として持ち、事故ゼロを目標として取り組んでいます。

- ・安全委員による就業現場の安全パトロール
- ・ミニ広報紙「ニュースレター」に安全だより掲載
- ・自動車教習所での安全研修
- ・防護ネットの貸出し
- ・職域班ごとのヒヤリハット研修
- ・事故発生状況の分析及び事故防止啓発チラシの配布
- ・熱中症予防及び応急処置の啓発
- ・安全就業大会の実施(全会員対象)

以上のような取り組みを行ってもなかなか事故発生ゼロの達成は出来ません。

今回の受賞を励みに今後とも会員、役職員一丸となって、安全就業に努めてまいります。

《事務局長 岩山 裕 記》



公益社団法人 野々市市シルバー人材センター

野々市市は、北東部を金沢市、南西部を白山市に接した位置にあり、2011年11月に石川郡野々市町から野々市市へと移行し、発展してきました。わずか13.56平方キロメートルの小さな市ですが、人口は約53,000人、大小の商店が多くあり生活面においては大変便利な街であるため、東洋経済新報社の2019年度版全国「住みよさランキング」では第3位となりました。

人口の増加に伴い仕事の依頼は増える一方ですが、会員の高齢化と特に剪定や除草作業の会員の人材不足は深刻な状況であり、事故につながるリスクは増大しています。そのような中ではありますが、事故を防ぐべく、以下のことを実施しています。

1. 年に4回発行の安全適正就業通信に発生した事故や苦情をすべて掲載する
2. 事故が起きた場合はすぐに原因を考える安全会議を開催する
3. 会員の顔を見る都度、声掛けをする
4. 会員への健康診断受診を推進する
5. 会員からヒヤリ・ハット事例を募集する
6. もし事故が起きたらどうなるかを想像してもらう

これからも会員と役職員が心をひとつにして、より一層事故防止に取り組んで参りたいと思います。

《常務理事兼事務局長 麦山 真珠美 記》



公益社団法人 小松市シルバー人材センター

小松市は、石川県の西南部に広がる加賀平野の中央に位置し、ものづくりや繊維のまち、産業都市として発展してきました。小松空港や北陸自動車道など交通の便利の良いところで、2023年には北陸新幹線が延伸され、新幹線小松駅が開業することとなっています。

当センターは昭和55年10月に設立され、平成24年4月に公益社団法人に移行し、来年度には設立40周年を迎えることから、市制80周年と併せ、記念式典及びシルバーフェスタを予定しています。

当センターの安全就業の取組みでは、年2回程度安全就業研修会（特に剪定班及び除草班）を実施し、安全就業の基本に立ち返って、基本の再確認を中心に行っています。特に、損害賠償事故の多くは飛び石による車や住宅等のガラス破損事故で、事前の現場状況の確認や防護ネットの各グループへ配布や蜂対策には蜂ノックの配布を行い未然防止につなげています。

万一事故が発生した場合は、緊急班長会による事故現場での原因の分析や問題点を洗い出し、会員へ問題点をフィードバックし、再発防止に繋げていきます。

安全対策は「4つの安全宣言」（危険予知活動と正しい作業手順、交通規則遵守、事前下見し状況を仲間を確認、「自分の身を守る」保護具装着）を実践し、周知徹底を図ることとしています。

事故発生ゼロは、なかなか達成できませんが、目標を達成できるよう今後も安全就業の徹底に取り組んで参ります。

《理事長 谷口 潤一 記》



公益社団法人 永平寺町シルバー人材センター

永平寺町は、福井県嶺北地方の中央に位置し、町内の中央に鮎・サクラマスで知られている九頭竜川が東西に流れ、南には、曹洞宗大本山永平寺がある風光明媚な町です。

当センターは、平成18年に永平寺町の3町村合併に伴いシルバー人材センターも合併、平成23年4月、公益社団法人に移行し、平成30年度の実績は、会員数219名、契約件数2,195件、契約金額1億9,800万円、発注者別実績は、公共36%、民間48%、一般家庭16%であります。

当センターの安全・適正就業の推進については、安全適正就業部会（理事3人、会員3人、職員2人）を中心として、安全管理および適正就業推進体制を構築しております。

主な取組みとして、安全適正就業・事故防止対策・会員の健康管理の推進、センター通信等を活用した啓発活動、その他、安全適正就業促進大会、安全パトロール、作業機械等の取扱いに関する講習会を開催するなど、事故防止に努めております。

今回の受賞を励みに今後も会員、役職員が一丸となって、安全就業対策に取組み「事故ゼロ」を目指して参りたいと考えております。

《常務理事兼事務局長 小林良一 記》



★ 水害・土砂災害から身を守るには？ ★

台風、豪雨などによる「水害」「土砂災害」が増加しています。国土交通省の調査では、過去10年で水害による家屋や家庭製品、事業所資産などの被害額は約3倍に、また、土砂災害については平成30年は3,459件にのぼり、集計をはじめた昭和57年以降の最多件数を記録しました。大雨による水害や土砂災害時には自分の身を守ることが最優先。そこで避難のポイントを紹介します。

まずは！

自分の職場や自宅のハザードマップを確認

国土交通省や各自治体で作成された土砂災害や洪水のハザードマップで、普段から自分の職場や自宅のリスクをチェックし、避難場所や避難経路を確認しておきましょう



<https://disaportal.gsi.go.jp/>

大雨が振り出したら！

避難情報の種類をあらためて確認

避難情報	とるべき避難行動
避難準備・ 高齢者等 避難開始	<ul style="list-style-type: none">●特に避難に時間を要する人（要配慮者等）は避難行動を開始。●それ以外の人、家族との連絡、非常用持出品の用意等、避難準備を開始。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none">●通常の避難行動ができる人は、避難を開始。
避難指示 (緊急)	<ul style="list-style-type: none">●避難の最中の人、ただちに完了。●まだ避難をしていない人は、生命を守る最低限の行動（2階や近くの高い建物に一時避難）を行う。

※必要に応じて緊急連絡網で関係者に伝える。

避難のポイント

屋内にいるとき

- 決して地下室には入ってはいけません。出入り口ドアの外側で浸水している場合には、ドアが水圧で開かないことがあります。
- 土砂災害により、木造家屋の1階で多く被災しています。避難場所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上に避難しましょう。

地階にいるとき

- 浸水すると漏電やショートなどにより停電し、照明が消えたり、電話もつながらなくなったりすることがあります。特に地階は停電すると真っ暗になるので、落ち着いて速やかに避難しましょう。
- 浸水により避難経路が限定されるので、ふだんから避難経路を確認しておきましょう。

自動車に乗っているとき

- 自動車が浸水・冠水してしまった場合、流される前に車を放置して避難しましょう。

(出所 中央労働災害防止協会「安全衛生かべしんぶん」より抜粋)

令和元年度 7 月事故速報

(1) 重篤事故

7 月は、2 件の重篤事故報告がありました。

7 月までの累計で比較してみると、平成 30 年度の 14 件と比して令和元年度は 8 件と 6 件減少しています。

なお、過去 10 年間に於いて重篤事故件数が一番少なかった平成 28 年度（年間 28 件）の 9 件と比較しても 1 件の減少となっていますので、この傾向を続けることにより、今年度の重篤事故件数が過去 10 年間の最小件数を更新できるよう、安全対策に取り組みましょう。

また、就業中・就業途上別にみると、就業中では平成 30 年度の 9 件と比して 4 件と 5 件の減少となっており、また就業途上においては、平成 30 年度の 5 件と比して 4 件と 1 件の減少となっています。

7 月報告分までの累計

令和元年度 7 月 累計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				平成 30 年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	4 (1)	3 (1)	1 (0)	4 (1)	0 (0)	就業中	9	8	1	8	1	
就業途上	4 (1)	0 (0)	4 (1)	4 (1)	0 (0)	就業途上	5	5	0	4	1	
計	8 (2)	3 (1)	5 (1)	8 (2)	0 (0)	計	14	13	1	12	2	

↳ 対前年度比 57.1% ()は、当月（7 月）報告分です。

7 月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
7	男 76 歳	就業中 (死亡)	三脚の天板（高さ 2.5m）に登り、カシの木の幹をチェーンソーを使用し切断していたところ、一気に切れたため幹の枝が体にぶつかり落下したことにより頸椎を骨折し病院に搬送された。最初は手術後 3 週間程度で退院予定であったが、3 日後に急変し死亡した。	○	×	—
8	男 81 歳	就業途上 (入院)	剪定作業のため、軽トラックで就業先に向かう途中、信号のない交差点へ進入した際、左方向から直進してきた車両が会員の車両に衝突し、病院に救急搬送され緊急手術を行なった。その後、約 200 日間入院したが、先日病院で死亡した。	—	—	自動車

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

7月は、就業中の事故12件、就業途上の事故6件と、合計18件であり、昨年度同月の29件と比して11件の減少となっている。また、男女別では、男性は6件の減少となっており、女性も5件の減少となっている。

7月までの累計で比較してみると、昨年度の109件と比して、本年度は75件と34件の減少となっている。就業中・就業途上別にみると、就業中は20件の減少となっており、就業途上も14件の減少となっている。男女別では、男性は27件の減少となっており、女性も7件の減少となっている。

令和元年度7月分

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)	
		7月	累計	7月	累計	7月	累計	7月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等	7(8)	19(30)	7(8)	19(29)	0(0)	0(1)	76	73
	除草作業	1(3)	8(15)	1(1)	4(9)	0(2)	4(6)	71	75
	屋内・屋外清掃作業	1(2)	14(10)	0(2)	4(6)	1(0)	10(4)	76	77
	その他	3(5)	16(22)	2(4)	12(15)	1(1)	4(7)	78	76
	計	12(18)	57(77)	10(15)	39(59)	2(3)	18(18)	76	75
就業途上	徒歩	0(3)	3(7)	0(1)	1(3)	0(2)	2(4)	—	79
	自転車	5(5)	12(16)	2(3)	3(5)	3(2)	9(11)	77	76
	バイク	1(3)	3(8)	1(0)	1(3)	0(3)	2(5)	65	73
	自動車	0(0)	0(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	—	—
	計	6(11)	18(32)	3(4)	5(12)	3(7)	13(20)	75	76
合計		18(29)	75(109)	13(19)	44(71)	5(10)	31(38)	76	75

()は平成30年度同月、累計では同月までの発生件数

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います。

(平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済)

(3) シルバー派遣事業における労働災害報告の事故（1ヶ月以上）

5月は、仕事の型別では「調理人」、「弁当・惣菜類製造工」、「バス運転手」、「ごみ収集作業員」、「その他の清掃業務」、「選択作業員」がそれぞれ1件あり、合計6件となっている。男女別の内訳は、男性が5件、女性が1件となっている。

5月までの累計は16件となり、男女別の内訳は、男性が13件、女性が3件となっている。なお、死亡事故はありませんでした。

令和元年度5月分

	仕事の型 (小分類)	小分類 コード	事故数 (件)		男性 (件)		女性 (件)		平均年齢 (歳)	
			5月	累計	5月	累計	5月	累計	5月	累計
業 務 災 害	その他の家庭生活支援サービスの職業	359	0	1	1	1	0	0	—	73
	調理人	391	1	2	0	0	1	2	71	70
	弁当・惣菜類製造工	554	1	1	1	1	0	0	67	67
	製材工・チップ製造	561	0	1	0	1	0	0	—	72
	バス運転手	661	1	1	1	1	0	0	67	67
	内装工	717	0	1	0	1	0	0	—	78
	配達員	755	0	1	0	1	0	0	—	68
	ごみ収集作業員	764	1	1	1	1	0	0	70	70
	産業廃棄物収集作業員	765	0	1	0	1	0	0	—	79
	その他の清掃業務	769	1	1	1	1	0	0	72	72
	選択作業員	781	1	1	1	1	0	0	69	69
	軽作業員	782	0	2	0	1	0	1	—	74
	他に分類されない運搬・清掃・包装等の職業	789	0	2	0	2	0	0	—	72
計	—	6	16	5	13	1	3	69	72	

※ 通勤災害の事故については、上期分を令和元年12月号、1年間分を令和2年6月号で報告いたします。

「シルバー派遣事業における労働者死傷病報告等に基づく労働災害報告」については、(1)「派遣・業務災害報告」については、各月翌月最終稼働日までに、(2)「派遣・通勤災害報告」については、令和元年9月30日までの期間での発生分を令和元年10月31日までに必ず提出願います。
(平成31年4月22日付 事務局長通達により通知済)

今年は全国的に梅雨明けが遅く、明けた途端に毎日の猛暑。急激な気温の変化に体がついていかず熱中症のニュースを数多く耳にしました。そして、お盆の時期の台風襲来。災害に遭われた方にはお見舞い申し上げます。また、ゆっくりされる予定が早々にご子息、お孫さんなど帰ってしまって、寂しい思いをされた方もいらっしゃると思います。次に会える日までまた元気でお過ごしいただければと思います。そのお盆も過ぎ暦の上ではすでに秋を迎えますが、台風の後にはまた猛暑。まだまだ暑い日が続くことと思いますので、会員のみなさん、熱中症対策は今しばらく万全をお願いします。

前月号から3ヶ月にわたり、今年度の安全就業優秀・優良シルバー人材センターとして表彰を受けられた各センターの取り組み状況などを掲載しています。どちらのセンターもそれぞれ安全就業のため色々な工夫されていますので、ぜひご参考にされ、事故ゼロを目指して取り組んでいただければ幸いです。
(松山)

私たちが一般的にイメージし警戒している、いわゆる「台風が集中する月」というのは8月が多いと思いますが、それと同レベルで9月にも集中して台風が発生しています。実際に気象庁の月別台風件数を見てみると、2011年から2018年の8年間は2012年、2017年、2019年除いてすべての年で8月より9月の方が台風の発生が多くなっています(2016年は同数)。今月号は「水害・土砂災害から身を守るためには？」を特集してみました。土砂災害については、昨年は集計をはじめた昭和57年以降最多件数を記録しましたが、近年の異常気象の影響であると思います。今年もこれから9月に向けて台風、豪雨による水害・土砂災害の危険性がありますので、是非ご参考ください。
(笹野)

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

<頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 200円 A4判
(税抜・送料実費)

【改訂の内容】

- 1 現行のB5版／16頁からA4版／20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】